

授業科目名	在宅看護学特論Ⅲ <i>Advanced Studies in Home Care Nursing III</i>			担当教員	乗越 千枝、小林 裕美
開講年次	1年前期	セメスター	1	時間数(単位数)	30 (2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	療養上複雑で多様な課題を持つ療養者やケア提供者に対して倫理的判断・臨床的判断を総合して、問題解決方法を提案し、実施できる。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅ケアにおける療養者・家族への倫理的判断・臨床的判断に関する基本的な概念や理論について理解できる。</li> <li>2. 在宅ケアにおける療養者・家族への倫理的判断・臨床的判断に必要な能力や技術を修得することができる。</li> <li>3. 在宅ケアで直面する可能性の高い倫理的課題について具体的な問題解決方法を考えることができる。</li> <li>4. 療養上複雑で多様な課題を持つ療養者・家族およびケア提供者について倫理的判断・臨床的判断を統合して、問題解決方法を提案することができる。</li> </ol>				
授業計画	<p>1回 看護倫理の基礎知識 臨床における倫理的判断を検討するために必要な基本的な概念である倫理原則、徳の倫理、ケアリング、アドボカシーの諸理論と、文化的価値観や専門職としての倫理的責任について学ぶ。(乗越・小林)</p> <p>2回 在宅ケアで直面する倫理的問題 在宅ケアで直面するインフォームドコンセントや意思決定、倫理的・臨床的判断が必要な場面での現状、最新の動向や研究について討論する。(乗越・小林)</p> <p>3回 在宅ケアにおける意思決定支援 療養者とその家族の意思決定の様相を理解し、意思決定支援に必要なコミュニケーションスキルやツールを学び、具体的な支援について討論する。(乗越)</p> <p>4～5回 在宅ケアにおける看護過程の展開(1) 療養上複雑で多様な課題を持つ認知症の事例について、生活ニーズを抽出し、倫理的・臨床的判断と問題解決方法を検討し在宅看護過程を展開する。(乗越)</p> <p>6～7回 在宅ケアにおける看護過程の展開(2) 療養上複雑で多様な課題を持つ難病の事例について、生活ニーズを抽出し、倫理的・臨床的判断と問題解決方法を検討し在宅看護過程を展開する。(乗越)</p> <p>8～9回 在宅ケアにおける看護過程の展開(3) 療養上複雑で多様な課題を持つ小児の事例について、生活ニーズを抽出し、倫理的・臨床的判断と問題解決方法を検討し在宅看護過程を展開する。(小林)</p> <p>10～11回 在宅ケアにおける看護過程の展開(4) 療養上複雑で多様な課題を持つ終末期の事例について、生活ニーズを抽出し、倫理的・臨床的判断と問題解決方法を検討し在宅看護過程を展開する。(小林)</p> <p>12～13回 在宅ケアにおける看護過程の展開(5) 療養上複雑で多様な課題を持つ虐待事例への倫理的・臨床的判断と問題解決方法を検討し具体的な支援を考える。(乗越)</p> <p>14～15回 在宅看護過程の展開：事例検討 学生がこれまで経験した療養上複雑で多様な課題を持つ事例への支援をリフレクションする。そして本授業での学びを踏まえ、詳細な分析を行い、問題解決方法を検討する。(乗越・小林)</p>				

学習方法	主体的に学習に取り組めるようテーマに関する学生のプレゼンテーションと討議を基本とする。
オフィス アワー	水・木の昼休みもしくはメールでアポイントを取ってください c-norikoshi@jrckicn.ac.jp(乗越) h-kobayashi@jrckicn.ac.jp(小林)
テキスト	特に指定はしない
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Sara T. Fry, Mrgan-Jane Johstone 著, 片田典子, 山本アイ子訳: 看護実践の倫理 第3版. 東京, 日本看護協会出版会, 2010.</li> <li>・ Davis, A.J 監修, 小西恵美子監訳: 看護倫理. 東京, 日本看護協会出版会, 2002.</li> <li>・ Davis, A.J 他編, 小西恵美子監訳: 看護倫理を教える・学ぶ. 東京, 日本看護協会出版会, 2008.</li> <li>・ 中山和弘, 岩本貴編: 患者中心の意思決定支援. 東京, 中央法規, 2012.</li> <li>・ EL. Deci 著, 石田梅男訳: 自己決定の心理学, 東京, 誠信書房, 1985.</li> <li>・ Albert R. Jonsen 著, 赤林朗他監訳: 臨床倫理学—臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ第5版. 東京, 新興医学出版社, 2006.</li> <li>・ 石垣靖子, 清水哲郎編: 臨床倫理ベーシックレクチャー—身近な事例から倫理的問題を学ぶ. 東京, 日本看護協会出版会, 2012.</li> <li>・ 宮脇 美保子: 身近な事例で学ぶ看護倫理. 東京, 中央法規, 2008.</li> <li>・ シリーズ生命倫理学編集委員会編: シリーズ生命倫理学 14 看護倫理. 東京, 丸善出版株式会社, 2012.</li> <li>・ 赤林朗編: 入門・医療倫理 I. 東京, 勁草書房, 2005.</li> <li>・ 赤林朗編: 入門・医療倫理 II. 東京, 勁草書房, 2007.</li> <li>・ Chambliss, D. F.: ケアの向こう側—看護職が直面する道徳的・倫理的矛盾, 浅野祐子訳, 東京, 日本看護協会出版会, 2002.</li> <li>・ INR 日本版編集委員会: 臨床で直面する倫理的問題—キーワードと事例から学ぶ対処法, 東京, 日本看護協会出版会, 2001.</li> <li>・ 木村利人著: 看護に生かすバイオエシックス—よりよい倫理的判断のために, 東京, 学研, 2004.</li> <li>・ 岡崎寿美子, 小島恭子: ケアの質を高める看護倫理—ジレンマを解決するために, 東京, 医歯薬出版, 2002.</li> <li>・ 清水哲郎: 医療現場に臨む哲学, 東京, 勁草書房, 1997.</li> <li>・ 清水哲郎: 医療現場に臨む哲学 II, 東京, 勁草書房, 2000.</li> <li>・ 杉谷藤子, 川合政恵監修: 「看護者の倫理綱領」で読み解くベッドサイドの看護倫理事例 30, 東京, 日本看護協会出版会, 2007.</li> <li>・ Thompson, J. E., Thompson, H. O. ケイコ・イマイ・キシ, 竹内博明, 山本千沙子監訳: 看護倫理のための意思決定 10 のステップ. 東京, 日本看護協会出版会, 2004.</li> <li>・ Christine A Tanner: Clinical Judgment and Evidence-Based Practice: Toward and Pedagogies of Integration, 47(8), Journal of nursing Education, 2008, 335-336.</li> <li>・ Patricia Benner 著, 井部俊子監訳: ベナー看護論 新訳版 初心者から達人へ. 東京, 医学書院, 2005.</li> <li>・ Patricia Benner ほか著, 井上智子監訳: ベナー 看護ケアの臨床知 行動しつつ考えること 第2版. 東京, 医学書院, 2012.</li> </ul>
評価方法	授業・討議への参加度 (50%)、学習への取り組み・プレゼンテーション (50%)